ピックアップ3

進む！実践的な防災教育

－自然災害から命を守るために－

いざというとき、子どもたちの命を守る防災教育。
県内の学校では、東日本大震災をはじめとした大きな災害の教訓を生かした防災教育を行い、子どもたちの防災意識を高めています。

学校・保護者・地域が参加する合同訓練

今年度は、川場村をモデル地域として、震度5以上の地震を想定した訓練を行いました。

小・中学校、保護者、地域が連携して、災害発生時の避難経路、避難場所の確認や児童生徒の引き渡しなどを体験しました。今回は、防災アドバイザーとして、前橋地方気象台の地震津波防災官に来ていただき、地域防災をはじめ、児童生徒の安全確保に向けて、より効果的な避難訓練となるよう、指導を受けました。

保護者の迎えを待つ子どもたち

学校外で起きた災害に対応できる力も

災害が発生した時に子どもたちは、命を守るために自ら考えて行動しなければなりません。県では、子どもたちの主体的な姿勢を育てるため、災害についての知識に加え、実践的な防災教育を行っています。

また、学校だけでなく、家庭や地域と連携を進め、地域全体で子どもたちの安全と防災意識を高めていくような取り組みもしています。

参加者の感想

- 避難してみて、安全に避難するのは大変なことだと思いました。でも、お父さんが迎えに来てくれたときは嬉しかったです。（小学生）
- 普段、災害の少ない村なので、災害についてあまり意識していませんでしたが、いざというときのことを考えると、今回のような訓練は必要だと思いました。（保護者）

●問い合わせ：健康体育課　027-226-4709

文化財ライブラリィ Vol. 6

ぐんまを代表する近代和風の大邸宅

国指定重要文化財 旧中島家住宅

場所：太田市押切町1417
（太田市地域交流センター）
時代：昭和5（1930）年（約85年前）

旧中島家住宅は、太田市出身の故中島知久平（なかじまちくへい）が両親のために建てた、敷地面積1万㎡を超える大規模な邸宅です。

この住宅は、来客を迎える重厚な車寄（くるまよせ）、ステンドグラスやシャンデリアなどで細部にまで高価な装飾が施された応接室、客室から見渡せる広大な庭園など、宮殿建築の特徴が随所に見られる、群馬県を代表する近代和風建築です。

玄関棟の車寄部

客室棟の外観

●飛行機王・中島知久平

中島知久平は、海軍の軍人時代からの「飛行機を大空に飛ばす」という自分の夢を追求して軍隊を辞め、「中島飛行機株式会社」をつくった人です。中島飛行機株式会社とは、戦前における日本最大の航空機メーカーで、現在、太田市にある富士重工業株式会社（SUBARU）のルーツとなりました。戦闘機「隼（はやぶさ）」や「疾風（はやて）」を製造するなど、日本の航空機業界をリードしました。

大坂城よりも豪華？

旧中島家住宅の建設費について地元の太田市では、当時の金額で100万円かかったという話が伝わっています。昭和7年に完成した大坂城（復元天守）の建設費が約47万円と言われていますので、旧中島家住宅の建設費がいかに莫大なものであったか想像できますね。

現在、旧中島家住宅は、太田市の地域交流センターとして、応接室などの一部が無料で公開されています（月曜日が休館日）。

応接室

●問い合わせ：文化財保護課　027-226-4684